

「大阪万博アセス」 市民からの配慮書・方法書

「未来社会の実験場」としてのアセスメントをやりましょう！

概要版

夢洲にて、2019年1月22日撮影

2025年開催予定の「大阪・関西万博」に向けて、どのようなアセスメントが行われるべきか。私たちは、大阪湾における自然再生を進める立場から、ワークショップ（3回）や現地調査（6回）、一般意見募集などを行い、その成果としてこの提案をまとめました。

大阪万博アセスは、SDGsを念頭に、これからの日本のアセスメントのあり方に方向性を示すような「未来社会の実験場」にふさわしいものとなることを願っています。



第2回ワークショップ（2019年6月22日）

2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)概要

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

サブテーマ：多様で心身ともに健康な生き方

開催目的：①国連の持続可能な開発目標(SDGs)が達成される社会
②日本の国家戦略 Society5.0の実現

コンセプト：未来社会の実験場

開催場所：夢洲(大阪市臨海部)

開催期間：2019年5月3日～11月3日(185日間)

入場者数：約2,800万人(想定)

会場建設費：約1,250億円(想定)



2019年8月31日

公益社団法人大阪自然環境保全協会、NPO地域づくり工房

この活動は2019年度独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を受けています。



■大阪万博に求められるアセスメントとは

大阪万博は、テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の下、2つの開催目的（①国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)が達成される社会、②日本の国家戦略 Society5.0 の実現)を掲げ、万博を「未来社会の実験場」と位置付けて、これらの目的に沿った取組みを展開していくことを理念としています。

従って、大阪万博アセスでは、SDGs が評価軸となって、その情報交流においては ICT (情報通信技術) が有効に利用されるものとなるはずですが。

ミラノ博 (2015 年) では、SDGs への寄与を念頭に持続可能性アセスメントが実施されています。欧州共同体 (EU) では政策や計画といった戦略的段階で環境アセスメント (SEA) が行われていますが、狭い意味での環境対策ではなく、経済や文化、福祉などの他分野と広く統合した捉え方 (環境統合) により、持続可能な社会に向けた評価を行っています。

日本では、戦略アセスも持続可能性アセスも未熟な状態ですが、大阪万博アセスは、SDGs が掲げるターゲット「2030 年までに、持続可能な開発の進捗状況を測る GDP 以外の尺度を開発する既存の取組を更に前進させ」(17,19) るものになるはずですが。私たちは、持続可能な社会の基盤は生物多様性など自然資本の豊かさ (グリーンインフラ) に求めるべきであるとの立場から、大阪万博アセスのあり方を提案します。



■大阪万博で配慮されるべきことは

大阪万博アセスを実施に際して、以下の3つの点は、大前提として説明が必要です。少なくとも、大阪市条例に基づいて実施する場合は、方法書に的確な説明を記載すべきです。

1. なぜ夢洲なのか

大阪府内の過去の2つの万博会場跡地 (万博記念公園、鶴見緑地) をはじめ、他にも会場候補となりうる場所があります。アセスメントを行う上では、少なくとも、他の会場候補となりうる場所との比較検討を行った経緯が明らかにされなくてはなりません。

夢洲は産業廃棄物処分場としての埋立が完了していません。巨費をかけて土砂を入れて埋立て、会場の造成に間に合わせようとしている理由と、夢洲の地先にさらに埋立事業 (新島) が進められていることとの関係について説明が必要です。また、2014 年開業予定の IR (カジノ付きリゾート) 計画との整合性の説明と、複合的な環境影響についてのアセスメントが実施される必要があります。

ちなみに、ミラノ博の持続可能性アセスでは、影響分析の対象エリアを、会場周辺だけではなく、ミラノ市郊外を含むロンバルディア州全体を含めています。また、複数の候補地を比較対象として評価し、説明していました。大阪万博アセスも、地域の将来像を視野に入れた取組みとなるべきです。

2. 大阪湾の自然再生に向けた歴史と現状、可能性

大阪湾は、工業化・都市化に伴う開発で、浜辺や干潟などの海と陸をつなぐ移行帯がほぼ完全に失われ、埋立地は公害発生源となって生活環境を脅かしました。そうした中から自然環境を取り戻す市民運動がわきおこり、南港野鳥園や産業廃棄物処分場・堺第 7-3 区での「共生の森」づくりなどに結実し、次第に生き物の回復がみられるようになりました。万博会場の夢洲は、隣接する南港野鳥園とセットで、生物多様性ホットスポット (大阪府レッドリスト 2014) の A ランクに指定されています。

大阪湾岸域では自然再生に向けた営みが蓄積され、生き物もこれに応えています。このことをどのように評価し、万博の開催を通じて育てていくのが問われています。また、アセスメントで得られたデータを基に、万博開催後の夢洲と大阪湾の自然環境がどのように変化していくかを、長期にわたりモニタリングしていくべきだと考えます。



3. 安心・安全への配慮

夢洲が会場予定地であることに対して多くの市民は以下の3つ点を不安に思っています。アセスメントの際には、被害の想定と損失の見積り、対策のあり方に関しても説明するべきです。

①埋立物がもたらす不安

夢洲には有害物質も廃棄処分されています。工事中や施設の供用後、撤去時などにそれらが飛散または漏出する不安があり、人間だけではなく、野鳥などの生き物への影響も懸念されます。

②自然災害の不安

昨年台風 21 号のような甚大な被害が万博会場を襲う不安があります。また、想定されている南海トラフ巨大地震などによる津波や液状化の被害の不安もあり、特段の対策が必要です。

③カジノへの不安

夢洲では IR（2024 年開業）に加えて、行政トップが万博会場跡地での F1 公道レースの構想を打ち出すなど、賭博性の高いまちづくりで犯罪や闇社会が拡大することへの不安があります。

■大阪万博アセスの方法に対する提案

1. アセス全般の実施方法について関係機関に要請します。

- ①経済産業省は、環境省と連携し、次の環境影響評価法改正に向けた社会実験として位置づけて、環境影響評価要綱を策定し、万博協会に実施させること。
- ②万博協会は、現在準備している大阪市条例に基づく環境影響評価に、自主的に配慮書手続きを加えて、立地や規模の妥当性を説明し、意見を求めること。
- ③万博協会は、方法書の作成にあたり、SDGs を評価軸とし、大阪湾における自然再生に資するアセスメントとして設計すること。その際、開催前から開催期間中、解体・閉鎖、その後の長期にわたるモニタリングの実施を組み込むこと。
- ④大阪府と大阪市は、夢洲が「大阪府レッドリスト 2014」において生物多様性ホットスポットの A ランクに指定されていることを踏まえて、その保全に責任を持ってアセスメントに関与すること。また、IR の開発に向けたアセスメントと連動させて、これらの複合的影響について説明責任を果たすこと。
- ⑤BIEは、この提案に書かれている地域の現状を把握した上で、登録博として適切な実施内容となるように日本政府及び万博協会に助言すること。
- ⑥すべての関係機関は、アセスメントのあらゆる段階（事前配慮、方法書作成、調査・予測・評価、事後調査など）において、情報の開示と幅広い市民の参加・協働を進める方向で努力すること。

2. 方法書の作成に際しては以下のことを盛り込むこと

- ①大阪湾の開発と公害、環境改善や自然再生、人と自然とのふれあい、景観などについての歴史を整理し、SDGs の観点から現状と課題を整理する。その上で、夢洲と周辺湾岸域での詳細な生態系調査に基づき、広域的なグリーンインフラとしてのポテンシャルを評価する。また、万博後の自然再生を念頭に、会場整備の規模やレイアウト、工法などで、保護（回避・縮小・代償措置）すべきものを明らかにする。
- ②会場やアクセス道路の工事及び実施（供用）、撤去などに伴う CO₂ 排出量の把握とその徹底した縮減、さらにオフセットとしての自然再生などについて検討する。また、他の大気質・水質などの変化が、生活環境や鳥類などの生き物への影響（特に騒音や光害など）を把握し、対策を検討する。
- ③工事に伴う土砂流出や高潮による埋立地内の溜り水や土砂の流出などにより生じる周辺海域での水質汚濁の影響を把握できるように調査する。また、万博開催中に、大地震や津波、突風や高潮などから来場者や運営関係者の安全を確保するために、被害や避難のシミュレーションを行う。
- ④国内外の過去の巨大イベントの失敗や成功の経験を調べ、計画の持続可能性を評価できるようにする。

3. 参加型アセスの「実験場」としてデザインし、市民との協働を進めること。

- ①方法書（できれば配慮書）の作成を大阪湾での環境保全活動に係わる市民団体との協働で行う。
- ②調査・予測・評価、事後調査において、市民団体との協働、幅広い市民の関与の機会を設けること。
- ③幅広い市民の理解と対話を可能とする ICT の利用により双方向の情報交流を進めること。

■現地調査（2019年6月17日）報告書からの抜粋

確認した鳥種（24種）：

マガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、ドバト、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、コチドリ、コアジサシ、トビ、チョウゲンボウ、ハンボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ

※以上の鳥種の内、繁殖関連の観察

- ・カルガモ：巣立ちビナ連れ
- ・カイツブリ：抱卵中の巣
- ・バン：繁殖適地で複数個体を確認
- ・コチドリ：繁殖適地で確認
- ・コアジサシ：繁殖適地で少なくとも3羽確認。1羽の餌運びを確認。ただし巣やヒナは確認できず。餌を運んでいった方向からは夢洲内の可能性が高い。
- ・ヒバリ：繁殖適地で囀り
- ・セッカ：繁殖適地で囀り

調査：大阪自然環境保全協会、指導：大阪自然史博物館・和田岳主任学芸員



(写真：小野款司、文責：加賀まゆみ)

■取組みの経緯（2019年3月～7月）

準備会 日時：2019年3月26日19時～21時
会場：大阪自然環境保全協会（参加者9名）
内容：ワークショップのすすめ方の相談

第1回ワークショップ

テーマ：大阪万博の何が心配か～市民からの配慮書づくり～

日時：5月10日（金）18時30分～21時

会場：大阪自然環境保全協会（参加者20名）

内容：万博計画の概要と私たちの調査活動の蓄積を参考に、大阪湾の自然環境を守り育てる観点から懸念されることと、それを検証するための調査方法について議論した。

夢洲現地見学（5月11日、12名参加）

夢洲現地調査① テーマ：野鳥（1回目）、6月17日、参加者4名

第2回ワークショップ

テーマ：何を調べるべきか～市民からの方法書づくり～

日時：6月22日（土）18時30分～21時

会場：大阪市総合生涯学習センター（参加者22名）

内容：話題提供（2件）とグループ討議、投票ゲーム

話題提供①「夢洲の環境アセスメント」

夏原由博さん（会長、名古屋大学大学院教授）

話題提供②「共生の森 自然創生の記録」

奥田喜代子さん（NPO法人共生の森代表）

グループ討議と投票ゲームによる絞込み

夢洲現地調査② テーマ：植物、7月9日、参加者4名

夢洲現地調査③ テーマ：野鳥（2回目）、7月11日、参加者2名

夢洲現地調査④ テーマ：水辺の生き物、7月15日、参加者4名

夢洲現地調査⑤ テーマ：昆虫（1回目）、7月26日、参加者4名

提案書案のWEB公開（7月15日）、意見募集（8月20日まで）

第3回ワークショップ

テーマ：大阪万博に求められるアセスメントとは

日時：7月27日（土）14時～17時

会場：鶴見緑地公園・なにわECOスクエア（参加者27名）

内容：「市民からの提案」（案）に基づく意見交換

助言者：矢持 進さん（大阪市立大学名誉教授）

山西良平さん（西宮市貝類館顧問）

山田 明さん（名古屋市立大学名誉教授）

夢洲現地調査⑥ テーマ：昆虫（2回目）、7月29日、参加者5名



第1回ワークショップ（5月10日）



第3回ワークショップ（7月27日）



昆虫調査の様子（7月26日）

**本提案の本編と資料編、
各現地調査報告書を大阪
自然環境保全協会WEB
サイトに公開しています。**



<http://www.nature.or.jp/action/yumeshimamirai.html>

発行：公益社団法人大阪自然環境保全協会 大阪市北区天神橋1-9-13（〒530-0041）Tel：06-6242-8720

NPO地域づくり工房 長野県大町市大町3302（〒398-0002）Tel&Fax：0261-22-7601

＜この活動は2019年度独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を受けて実施しています＞